

22年3月期及び22年3月末の計数は旧池田銀行と旧泉州銀行2行の単純合算です。  
23年3月期（平成22年度）の計数は、旧泉州銀行の22年4月の計数を含めております。

連結ベース

損益状況

科目	平成22年度	平成23年度
経常収益	117,308	116,007
経常費用( )	109,827	105,214
経常利益	7,481	10,792
与信関連費用( )	15,937	12,189
当期純利益	7,652	3,770

当期純利益



単体ベース

預金残高



個人預金残高



単体ベース

損益状況

科目	平成22年度	平成23年度
業務粗利益	76,809	74,051
資金利益	63,240	60,143
役員取引等利益	3,377	2,911
その他業務利益	10,191	10,995
経費( )	51,276	50,759
うち人件費( )	24,597	24,760
うち物件費( )	24,070	23,252
コア業務純益	16,477	14,031
業務純益	22,113	20,881
経常利益	5,748	7,716
与信関連費用( )	13,194	9,379
当期純利益	6,321	2,050

業務純益



貸出金残高



住宅ローン残高



コア業務純益



当期純利益



業績の概要

(損益の状況)

当行グループ連結業績につきましては、当連結会計年度の経常収益は、資金運用収益709億10百万円、役員取引等収益162億77百万円、その他業務収益181億32百万円及びその他経常収益106億87百万円を計上し、1,160億7百万円となりました。また、経常費用は、資金調達費用107億64百万円、役員取引等費用61億92百万円、その他業務費用69億77百万円、営業経費555億67百万円及びその他経常費用257億13百万円を計上し、1,052億14百万円となりました。

以上の結果、経常利益は107億92百万円となり、特別損益計上後の税金等調整前当期純利益は106億6百万円となりました。また、法人税等合計66億86百万円並びに少数株主利益1億48百万円を計上後の当期純利益は37億70百万円となりました。当行単体業績につきましては、業務粗利益は、740億51百万円となりました。また、業務粗利益から人件費・物件費等の経費並びに一般貸倒引当金繰入額を控除した業務純益は208億81百万円となりました。

### 預かり資産販売額

(単位：億円)



### 有価証券残高

(単位：億円)



業務純益に不良債権処理額並びに株式関係損益などの臨時損益を加減した経常利益は77億16百万円となり、特別損益及び法人税等を計上後の当期純利益は20億50百万円となりました。

#### (資産・負債の状況)

預金の当連結会計年度末残高は、4兆3,956億円となりました。

貸出金の当連結会計年度末残高は、3兆5,161億円となりました。

### 金融再生法に基づく債権の開示

(単位：億円)



#### 平成24年3月期の保全状況

(単位：億円)

	債権額	保全額	保全率
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	140	140	100.00%
危険債権	432	387	89.74%
要管理債権	74	41	56.34%
合計	647	570	88.12%
正常債権	35,082		
保全額：担保等による保全額＋貸倒引当金			

#### 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権のことです。

#### 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権のことです。

#### 要管理債権

要注意先に対する債権のうち、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当するものです。(要注意先：貸出条件、債務の履行状況、財務内容に問題があり、今後の管理に注意が必要な債務者。)

#### 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに要管理債権以外のものに区分される債権のことです。

有価証券の当連結会計年度末残高は、1兆1,999億円となりました。

なお、単体ベースの預金残高は、前事業年度末比507億円増加の4兆4,077億円に、貸出金残高は、前事業年度末比151億円増加の3兆5,274億円に、有価証券残高は、前事業年度末比1,222億円増加の1兆2,037億円となりました。